

2021.1.28

都道府県知事 各位

感染対策へ住民に基本知識と実践を促進する提案

(小冊子「予防と家庭看護の実践」配布への協力要請)

前略

昨年初頭、新型コロナウイルス感染の発生からほぼ1年が経過し、対応にご尽力されていることに深甚な敬意と感謝を申し上げます。

当NPOセルフメディケーション推進協議会(NPO・SMAC)は国民への健康啓発を促進する中立の団体です。感染の経緯を注視し、国民ができる感染防御の基本を周知し、実践を呼び掛けてきました。5月に小冊子「予防と家庭看護の実践」を刊行し、WEBに公開し、関係方面へ配布してきました。

第一波、第二波と続いた感染は終息しないまま年末から第三波が到来し、首都圏を含む11都道府県に緊急事態宣言が再発令されました。不要不急の外出自粛、テレワークの奨励等の行動変容やPCR検査の拡充、ワクチン開発・治療薬等の医療対策は着実に効果を挙げつつあります。しかしながら、その有効性・安全性が検証されCOVID-19ウイルスの完全制御が実証されるにはまだ時間を要します。

国民への啓発はウイルスに関する基本知識と衛生、防疫について説明し、理解し納得の上で行動を実践することです。曖昧な断片的憶測は、不安をあおり可能な予防を放棄することになります。感染が拡大すると医療施設、人員の限界から家庭や簡易施設での対応をしなければなりません。当人や看護・介護に当たる家族の方に予め正しい知識を学んで頂くこと、実際の場面に際して適切な助言をするシステムを準備することが肝要です。

小冊子「予防と家庭看護の実践」は必ず役立ちます。特に家庭看護の必要性が逼迫している第三波の制御には必須です。当団体は微力で、残念ですが独力による配布には限界があります。自治体の英断により、小冊子を全家庭への配布にご協力を頂けないでしょうか。ご検討くださるようお願い申し上げます。

頒布に関しては規定を同封いたしました。また当協議会WEB SITEにも掲載しています。詳しくは当協議会事務局にご連絡ください。<http://www.self-medication.ne.jp>

草々

NPO・セルフメディケーション推進協議会
会長 村田 正弘